



東邦大学 佐倉だより



東邦大学医療センター佐倉病院
発行：広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741 千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL 043-462-8811 (代) FAX 043-462-8820 (代)
URL <https://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



vol. **50**
2021.1.1

基本理念

- 医療の目的 質の高い医療を安全に提供する病院
- 病診（病）連携 地域に貢献する病院
- 教職員のある方 人間愛を共有する病院
- 職場環境 楽しく明るくチャレンジする病院
- 生涯教育 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

1 Executive Message

新年のご挨拶
病院長 長尾 建樹

2 アピールしたい診療と研究：QOL向上を目指した小児てんかん診療 小児科 教授 金村 英秋

3 新任紹介：地域周産期母子医療センター 部長 川瀬 泰浩

3 ロボット手術システム(ダヴィンチ[®])の導入について：泌尿器科 教授 鈴木 啓悦

4 第15回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナーを開催して：医療連携・患者支援センター 竹原 和宏 医療連携セミナー 次回開催予告

Topics News

Executive Message

新年のご挨拶



病院長

長尾 建樹

Nagao Takeki

新年おめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でしたが、何とか新しい年を迎えることができたことに少なからず安堵を感じております。皆様方におかれましても大変なご苦勞を乗り越えられてきたこととお察し申し上げますと同時に、新しい年に向かって皆様となお一層の強い連携のもとに、より良い医療環境を築いてまいりたいと思っております。本年も変わらぬご厚情よろしく願いいたします。

当院は高度急性期病院として地域貢献を続けられる「タフな病院」作りを目指してまいりました。昨年はコロナ禍にあっても緊急手術件数を減らすことなく教職員一丸となって診療に取り組み地域医療崩壊を防いでまいりました。今後も新型コロナウイルスの存在下に医療を展開しなければならず、以前にもまして感染防御に継続的に配慮した病院運営が求められています。教職員に対しては病院内だけでなく院外での行動にも細心の注意を払い万全な体調管理を課すのは当然ですが、患者さんをはじめとした地域の方々にも感染や感染防御に関する情報発信や指導を行うことも重要であり、ホームページや広報

誌を利用して地域で一丸となった感染対策を続けてまいります。新型コロナウイルス感染症のパンデミックは災害であり、地域災害拠点病院である当院は地域の感染防御をリードし地域医療崩壊を防ぐ使命があると思っております。

いままでの市内の基幹病院、医師会、行政機関と合同で行っていた災害に対する総合訓練に、感染防御や感染に対するトリアージも含めながら、台風や地震などの自然災害などの被災者に対する支援体制、そして地域安全のための防災体制を官民一体となってより一層確固たるものにしていかなければならないと考えております。

今後、災害医療はもとより地域完結の医療体制を確立するため、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーなどによる多職種協働による地域医療連携をさらに深化させ、最善の医療を最適な場所で適切な時期に受けられるように体制の強化を図ってまいります。また、地域の皆様へ専門性の高い医療が提供できるように人材の確保ならびにハード面での整備を継続し、学生や研修医に対しても高度できめ細かな教育が実施できるように努めてまいります。

我々は東邦大学建学の精神である「自然・生命・人間」を心に刻み、大自然に囲まれた佐倉の地で、生命の尊厳を忘れずに人として地域社会へ貢献することが本懐であります。これからも変わらぬ御支援、御理解をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして佳き年になるよう心から祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。

QOL向上を目指した小児てんかん診療

かねむら ひであき
小児科 教授 金村 英秋

当院小児科では様々な小児疾患への診療に対応していますが、その中で最も力を入れているのが神経疾患です。神経疾患は小児診療における患者数の多さに加え、小児最大の特徴であります「発達」を診療対象の中心にしている領域でもあるため、全ての小児疾患において関わりが生じる重要な分野であると言えます。当院小児科は2名の小児神経・てんかん専門医が中心となって診療にあたり、患者さんのご要望に応えるべく様々な取り組みを行っています。

①「より正確な診断」に向けて — 長時間ビデオ脳波同時記録 —

てんかん発作というと、「全身をガクガクさせ、泡を吹いている」という状態を思い浮かべる方も多いことと思います。しかし、この状態はてんかん発作のうちの一部であり、その他にもボーっとして呼びかけに応じない、など様々な症状が認められます。この中で、状況からはてんかん発作なのか、そうでないのか判断に迷うものも少なからずあります。その場合は、1～2泊の入院で長時間ビデオ脳波同時記録を行い、発作様イベントが起こった際の脳波活動を確認することで、その発作が「てんかん性」か「非てんかん性」かの診断をより詳細にかつ正確に行うよう取り組んでいます。

②「より適切な薬物治療」に向けて — 新規抗てんかん薬の有用性評価 —

治療の目標は最小限の副作用で最大限の治療効果をあげることにあります。てんかんに用いられる薬剤は新規薬も含めると20種類以上にも及びますが、副作用を含め各々が特性を有しています。しかし、新規薬は使用経験の少なさから有用性に関する知見は十分とは言えません。当科では薬剤特性を念頭におき、発作のタイプや既往歴を含めた背景ともあわせ、新規薬の有用性評価に積極的に取り組み、患者さんにとっての最善の薬剤選択を目指しています。

③最新治療の導入 — 迷走神経刺激療法 —

てんかんの治療は薬物療法が第一選択となりますが、約30%は薬剤抵抗性を示すとされています。これら難治な患者さんの一部に対して、迷走神経刺激療法という補助的治療が行われるようになりました。本療法は刺激装置(写真左)の体内植込み術、特殊器具(写真中央、右)による刺激調整の2段階の治療となりますが、いずれも資格認定医のみが治療にあたることができます。当院小児科には刺激調整の資格認定医が在籍しており、本療法などの最新の治療にも取り組んでいます。

④「真のQOL (生活の質) 向上」を目指して — 多角的機能評価の活用 —

てんかんに限らず、診療において最も重視されるべき点として「患者さん、ご家族のQOL向上」を目指すことが挙げられます。発作や脳波異常に伴う認知機能の低下や行動上の問題などがQOL低下に関連することが知られてきており、発作抑制だけを治療目標に掲げるのではなく、知能検査や様々な質問紙法を用いた心理・行動評価などの多角的機能評価を行うことで、何がQOL低下に関連し、どうすればQOL向上に繋がれるかを日々検討しながら、患者さんにとっての最良の治療法を提供するよう心掛けています。

⑤「地域医療への貢献」に向けて — 専門医研修施設としての役割 —

当院小児科は小児神経・てんかん・脳波専門医の研修施設に認定されています。その責務を果たすべく若手医師や医学生への指導に加え、地域医療関係者との勉強会や市民の方々への講演会などを積極的に開催することで、てんかん診療において地域医療に貢献できるよう日々取り組んでいます。

今後も当院小児科はこれらの取り組みを維持・継続させていくよう、力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

迷走神経刺激療法で使用する器具



左：パルスジェネレーター
(植込み型迷走神経刺激電極およびリード)

中央：ワンド (マグネット)

右：プログラマ
(迷走神経刺激療法プログラミングシステム)

新任紹介



地域周産期母子医療センター 部長

川瀬 泰浩 かわせ やすひろ

2020年4月1日付で東邦大学医療センター佐倉病院 地域周産期母子医療センター部長に就任いたしました川瀬泰浩と申します。大学卒業後、小児科医としてスタートいたしました。卒後4年目より都立築地産院小児科（現在の都立墨東病院新生児科）、東邦大学大森病院新生児科、自治医科大学さいたま医療センター小児科と、長年にわたり周産期・新生児医療に携わって参りました。その中でも東邦大学医療センター大森病院新生児科には、1995年1月～2009年6月、2011年11月～2020年3月と最も長く在籍し、特に新生児の呼吸管理や早産児の神経学的予後改善の研究に努めてきました。私が新生児医療の世界に入ったきっかけは、それまで早産児の圧倒的な死亡原因であった新生児呼吸窮迫症候群が市販された人工肺サーファクタントにより治療可能となり、その劇的な効果を目の当たりにしたことにあります。その後、わが国の周産期・新生児医療の進歩はめざましく、現在、

諸外国と比較してもトップレベルの低い周産期死亡率、新生児死亡率が維持されておりますが、私の主たる関心領域であります早産児の慢性肺疾患の予防や神経学的予後の改善等のまだまだ改善の余地のある問題も少なくなく、より一層の研究努力が必要と感じております。

今回、初めて千葉県の周産期医療に携わることとなりましたが、当院は2009年より千葉県の地域周産期母子医療センターに指定され、産婦人科とともにNICU 6床、GCU 6床の新生児病室で運営され千葉県の周産期・新生児医療の一翼を担っている現状を踏まえ、今後も地域との連携を深め、千葉県の周産期・新生児医療により一層貢献していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

また、当施設は日本周産期・新生児医学会の運営する周産期専門医制度において、母体・胎児領域、新生児領域のいずれにおいても専門医研修指定施設に認定されており、専門医研修にも力を注ぎ、周産期・新生児医療を志す若手医師の要望に応えていきたいと思っております。

ロボット手術システム(ダヴィンチX[®])の導入について

泌尿器科 教授 鈴木 啓悦

佐倉病院泌尿器科では、これまでも腹腔鏡手術や内視鏡手術を用いて、患者さんに優しい手術（低侵襲手術）に取り組んできました。前立腺癌の手術としては、腹腔鏡手術を毎年50件以上行ってきましたが、今年9月に第4世代のダヴィンチ手術システムである『ダヴィンチX[®]』を導入しました。

マスコミでも話題となっておりますが、ダヴィンチの特徴として、出血や手術創の低減はもちろん、ロボットにしかできない関節の360度回転や手振れ補正などによって、より正確かつ安全に手術を行う事が可能となり、男性機能や排尿などの機能温存の向上が期待できます。

日本で有数のダヴィンチ手術件数を誇る千葉県がんセンターで2年半に渡って研修し、ロボット手術認定医（プロクター）を取得した宋本尚俊医師を中心に『チームダヴィンチ』を立ち上げて手術を行っています。宋本医師は既に100件以上のロボット支援前立腺全摘除術を行っており、2時間程度のコンソール時間（実際にロボットを操作している手術時間）で当院での前立腺全摘除術も完了しています。現在は、毎週2件ずつのペースでロボット手術を行っています。

佐倉病院泌尿器科では、外科的手術の他にも、放射線治療や薬物療法などを用いて、それぞれの患者さんに合わせた最適な診療を心掛けています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ダヴィンチ手術システムは3つの部分から構成されます。



操作部(サージョンコンソール): 執刀医がここでロボットアームを操作して手術します。



助手用モニター(ビジョンカート): 助手の医師や看護師が、モニターを見ながらサポートします。



ロボットアーム部(ペイシェントカート): 先端に手術器具の鉗子やメスなどが付いています。4本のアームで構成。

第15回

東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナーを開催して



医療連携・患者支援センター 竹原 和宏



心臓血管外科 助教
石橋和幸



心臓血管外科 准教授
齋藤 綾



会場の様子

2020年10月1日(木)に第15回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナーを開催し、院外から会場に23名、Webで16名のご参加をいただきました。紹介患者の症例報告1では「緊急胸部大動脈ステントグラフト治療」と題して心臓血管外科 助教 石橋和幸が、続いて症例報告2では「高齢・超重症の大動脈弁狭窄症(透析症例)」と題して心臓血管外科 准教授 齋藤綾が講演しました。ミニレクチャーでは「大血管手術/僧帽弁手術の進歩」と題し、石橋和幸/齋藤綾より講演を行いました。手術動画を多く用いた講演であったため当院のインターネット環境では不安がりましたが、その後のアンケートでは「わかりやすく勉強になった」、「音声が届き取りやすく、映像の乱れもなかつ

た」とコメントをいただき、無事に終了することができ安堵しました。講演会終了後の情報交換会は残念ながら今回も開催できませんでしたが、今後も医療連携の構築に貢献できればと考えております。

次回以降の医療連携セミナーも会場・Webどちらでもご参加いただけるように企画しております。また講演中はWebでご参加の方からのご質問もお受けしておりますので、ご意見等も含めてお知らせください。皆様との連携のさらなる発展のために今後も多くの医療機関の方々にご参加いただき、地域との「顔の見える医療連携」、「対話する医療連携」を目指してまいります。

今後ともご参加のほどよろしくお願い致します。

医療連携セミナー開催のお知らせ

第16回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナー

- 開催日時：2021年1月29日(金) 19:00~20:15
- 開催場所：東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂
- 症例報告：「症例から学ぶ~高カリウム血症で紹介された84歳の女性」 東邦大学医療センター佐倉病院 腎臓内科 医師 石井 信伍
- 特別講演：「慢性腎臓病(CKD)の重症化予防 ~診療プランの選定と実践~」 東邦大学医療センター佐倉病院 腎臓内科 准教授 大橋 靖

※お申し込み等の詳細は、同封のご案内をご覧ください。

第17回 東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携セミナー

- 開催日時：2021年3月11日(木) 19:30~20:45
- 開催場所：東邦大学医療センター佐倉病院 7階講堂
- 一般演題：「ご紹介いただいた患者さんへの低侵襲治療をご紹介します！」
 - ・ロボット支援手術に関して(前立腺癌) 東邦大学医療センター佐倉病院 泌尿器科 助教 宋本 尚俊
 - ・内視鏡手術に関して(尿路結石・前立腺肥大症) 東邦大学医療センター佐倉病院 泌尿器科 助教 加藤 精二
- 特別講演：「前立腺癌診療アップデート」 東邦大学医療センター佐倉病院 泌尿器科 教授 鈴木 啓悦

※お申し込み等の詳細は、後日ご郵送にてお知らせ致します。

2020年度 医療連携学術フォーラムのお知らせ

2020年度は医療連携学術フォーラムの開催を見送らせていただきます。
2021年度の開催に向けて改めて検討して参ります。